

令和 6 年度

第 2 回教育行政評価委員会資料

多治見市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書



○土曜講座

「多治見の歴史探偵になろう② 700 年前にタイムトラベル～虎溪山永保寺」

多治見市教育委員会

2025 年 3 月 5 日

Ⅰ. 第3次多治見市教育基本計画

(Ⅰ) 計画の概要

● めざす子ども像

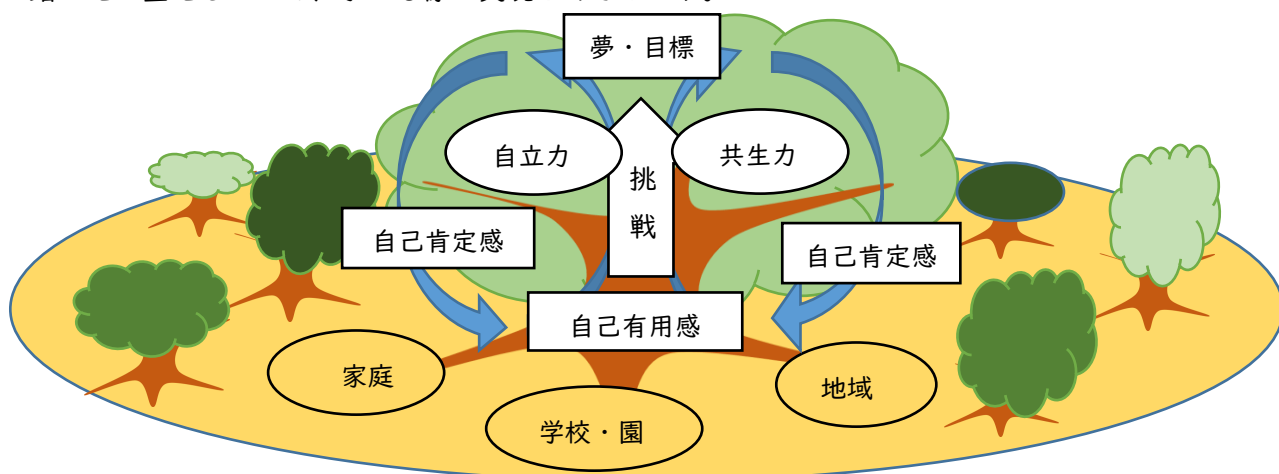
「お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子」

変化が激しく予測が困難といわれるこれからの社会をたくましく生き抜いていくために、主体的に考え、多様な他者と協働し、自分の夢や目標に向かって、失敗を恐れず挑戦する多治見の子をめざします。

● 「めざす子ども像」実現のために

家庭、学校・園、地域での関わりを通して認識した自分の良さや可能性（自己有用感）をもとに、夢や目標に向かって努力（挑戦）し続けることで、主体的に考える力（自立力）、多様な他者と協働する力（共生力）を育て、小さくても確かな自信（自己肯定感）につなげます。

このような夢や目標に向かって挑戦を繰り返すことができる教育環境をインクルーシブの観点を踏まえて整えることで、子ども像の実現をめざします。



● 計画の体系

めざす子ども像	「めざす子ども像」実現のために	基本施策
お互いを尊重し、主体的に学び、挑戦する多治見の子		施策1 体力・学力を高める教育・保育の推進 施策2 社会性と豊かな心を育む教育の推進 施策3 家庭、学校・園、地域の連携の推進 施策4 多様な課題に応じた支援の推進 施策5 学びを支える教育環境の充実

(2) 事業内容

施策Ⅰ 体力・学力を高める教育・保育の推進

Ⅰ 運動の楽しさを感じる取組の充実 (教育研究所)(子ども支援課)

● 具体的な取組

(1) 運動の楽しさを味わう機会の提供 (ACP※、たじっ子 CityCup 等)

子ども達が「運動が好き・楽しい」と感じるよう、楽しみながら積極的に体を動かす「ACP」や、多治見市内の小・中学生等を対象に、多様な種目の記録をネットで登録して競い合う「たじっ子 CityCup」を実施します。また、各種団体等と連携し、子ども達が体を動かしたりスポーツを体験したりする場を提供します。※ACP (アクティブ・チャイルド・プログラム)・・・子ども達が楽しみながら積極的に体を動かすプログラム

(2) 幼稚園・保育園での「いきいき運動遊び」の充実

幼児期には集団遊びやリズム遊び、サーキット遊び等、体を動かすことの楽しさを感じる取組を推進します。

(3) 豊かなスポーツライフの実現に向けた体育・保健体育等の充実

生涯運動に親しむ素地を育むため、体育・保健体育の授業や行事等で「運動が好き・楽しい」と感じるような活動を行います。

令和6年度計画	
・「たじっ子 CityCup2024」として、種目等をさらに検討して実施します。 ・「体力テストアプリ」を導入し、児童生徒の記録の集約等を行います。また、個に応じた運動の提案を活用できるようにします。 ・教員研修を充実させます。	
取組・実績	
<実施内容> ・体力向上主任研修会で、体力向上主任に ACP を紹介しました。 ・「たじっ子 CityCup2024」を前期に「体力テスト編」、後期に「縄跳び編」の2回実施し、延べ4,000人の児童生徒が参加しました。 ・「体力テストアプリ」で、児童生徒が瞬時に個人評価表を確認することができました。 ・各園において、「体力アッププラン」を作成し、意図的・計画的に「いきいき運動遊び」を実施しました。 ・各小、中学校において、「体力アッププラン」を作成し、1年間を見通した実施計画を作成し、意図的・計画的に体力アップを図りました。 ・夏休みに「運動遊び」に関わる研修を実施し、小学校・幼稚園・保育園から約30名の教員が参加しました。 <主要な事業費 (R6 年度予算) > ・消耗品費 231 千円	 <いきいき運動遊び>
成果・効果	
・ACP について教職員に広めることにより、体育の授業で取り組むことができました。 ・「体力テストアプリ」を導入して、児童生徒は、タブレット端末で、個人評価表を確認したり、個に応じた運動動画を活用したりして、運動する意欲を高めることができました。 ・各幼稚園、各小・中学校は運動の取組を工夫し、運動時間を確保することができました。	

令和7年度取組予定	
・児童生徒が自主的に取り組むことができるよう「たじっ子 CityCup2025」の内容をさらに充実させます。 ・教員のニーズにあった研修となるよう研修内容を充実させます。	

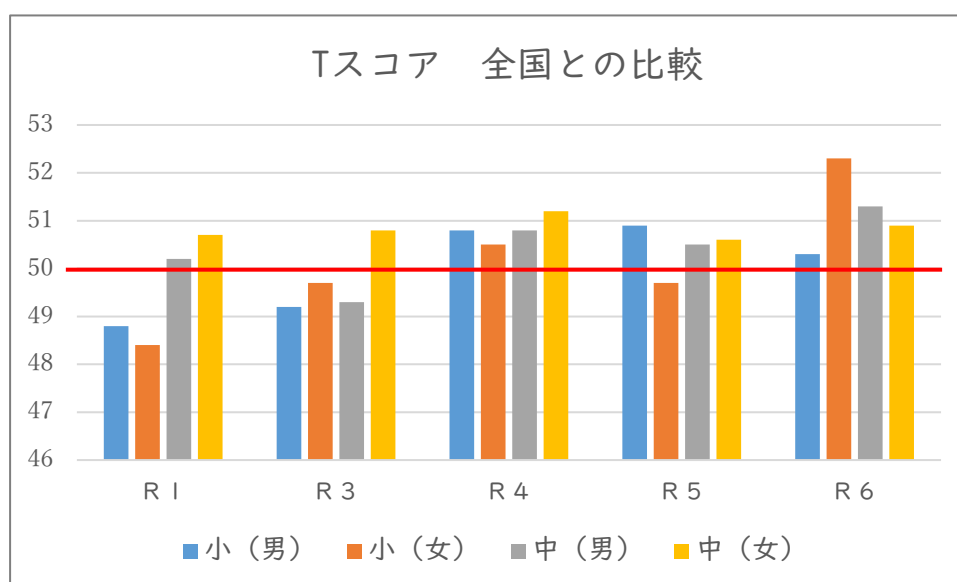
● 計画の成果目標

「運動やスポーツをすることが好きですか」の質問で「好き」「やや好き」と回答した割合 （「全国体力・運動能力、運動習慣等調査※1」の質問紙）				
基準値（令和4年度）		現状（令和6年度）		目標（令和9年度）
<市>	<国>	<市>	<国>	小・中学校、男女とも 全国平均を上回る
小学校(男) 91.1%	92.4%	小学校(男) 93.5%	93.2%	
小学校(女) 84.3%	85.9%	小学校(女) 89.5%	86.2%	
中学校(男) 85.4%	88.9%	中学校(男) 86.3%	90.6%	
中学校(女) 77.2%	77.3%	中学校(女) 78.2%	76.9%	

※1 全国体力・運動能力、運動習慣等調査・・・毎年実施される小学校5年生、中学校2年生対象の体力等の調査

全国と多治見市児童生徒のTスコア※2の比較 （「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」）		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
<市>	<市>	小・中学校、男女とも 全国平均を上回る
小学校(男) 50.8	小学校(男) 50.3	
小学校(女) 50.5	小学校(女) 52.3	
中学校(男) 50.8	中学校(男) 51.3	
中学校(女) 51.2	中学校(女) 50.9	

※2 Tスコア・・・全国平均値を50とした場合の尺度



●具体的な取組

（１）集中力や自信を高める幼稚園・保育園の「いきいき遊び」の実施

幼児期から、物事に興味・関心をもったり集中力を育んだりするための「いきいき遊び」を実施します。「スピード・リズム・タイミング※」や様々な感覚を高める遊びを、各園で創意工夫して取り組みます。保育者の適切な認め励ましの中で、子ども達が自信を高めていけるようにします。

※スピード・リズム・タイミング・・・出題された絵に関する指示をテンポよく順番に回答する。

（２）学ぶ意義や喜びを味わう授業の充実

主体的に学び続け、児童生徒が「学ぶことが好き」と感じることをできる授業づくりを行います。また、ICTを効果的に活用し、個に応じた指導や学習方法の充実を図る「個別最適な学び」や、多様な他者と関わり合いながら高まる「協働的な学び」を推進していきます。

（３）学力調査を活用した指導改善を図る学力向上推進研修会の開催

各学校では、学力調査等の結果からこれまでの指導の成果や課題を明らかにし、次への指導改善に取り組んでいます。学力向上推進研修会では、小学校から中学校まで継続して取り組むことを重点化し、子ども達が力を付ける授業づくりに生かします。

令和6年度計画	
・園においては「いきいき遊び」を継続します。 ・効果的な研修、訪問事業を実施します。 ・各種調査分析をもとに授業改善を推進します。	
取組・実績	
<実施内容> ・各園で、創意工夫した「いきいき遊び」を実施しました。 ・研修や訪問において、学ぶ意義や喜びを味わう授業について指導・助言を行いました。 ・全学校への訪問指導で、教科指導の重点について指導助言しました。 ・学力調査の結果を分析し、校長会や学力向上推進会議で周知しました。 各校では、実態や要因を分析し、学力向上指導改善プランを作成し取り組みました。 ・各校で「学力向上指導改善プラン」に基づき、授業改善を図りました。 <主要な事業費（R6年度予算）> ・役務費 2,481千円	 <いきいき遊び>
成果・効果	
・園においては、「いきいき遊び」の時間や方法が定着しています。内容を工夫し、集中して元気に活動する園児の姿が見られました。 ・研究指定校（南姫中、精華小）の発表会において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的に充実させる授業を通して児童生徒の「わかった」「できた」につながる授業づくりについて研修できました。 ・研究指定校（精華小学校附属愛児幼稚園）において、遊びと学級活動を結び付け、園児の興味関心を引き出すことができました。	
令和7年度取組予定	
・園において「いきいき遊び」を継続します。 ・効果的な研修、訪問事業を実施します。 ・各種調査分析をもとに授業改善を継続して推進します。	

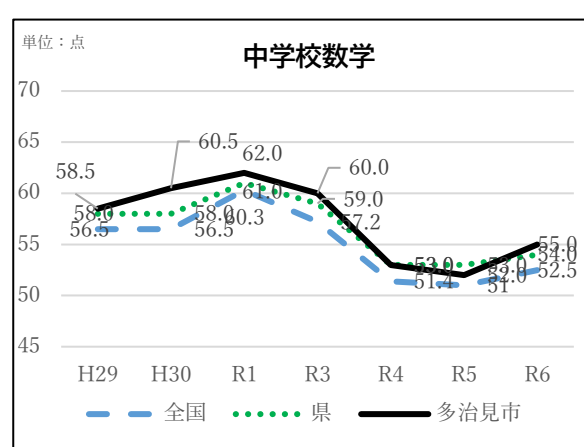
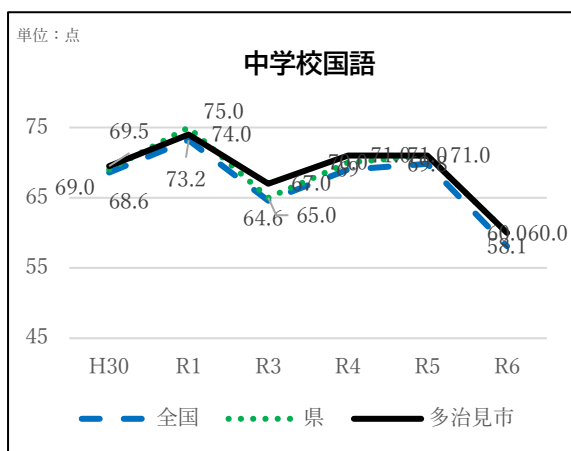
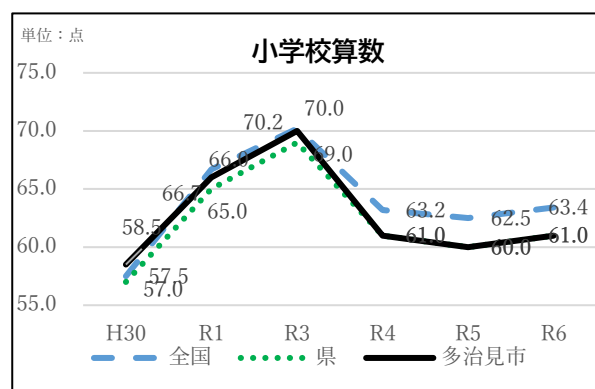
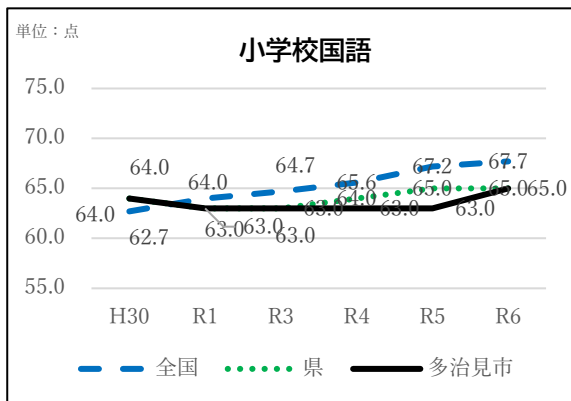
●計画の成果目標

「教科の勉強は好きですか」の質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合（「全国学力・学習状況調査※」の質問紙）					
基準値（令和４年度）		現状（令和６年度）		目標（令和９年度）	
【国語】<市>		【国語】<市>		【国語】<市>	
小学校 52.4%	<国> 59.2%	小学校 57.9%	<国> 62.0%	小学校 65.0%	
中学校 49.3%	61.9%	中学校 65.7%	64.3%	中学校 60.0%	
【算数・数学】		【算数・数学】		【算数・数学】	
<市>	<国>	<市>	<国>	<市>	
小学校 65.8%	62.5%	小学校 58.4%	61.0%	小学校 70.0%	
中学校 55.9%	58.1%	中学校 59.6%	57.2%	中学校 65.0%	

国語、算数・数学の平均点（「全国学力・学習状況調査」）					
基準値（令和４年度）		現状（令和６年度）		目標（令和９年度）	
【国語】<市>		<国>		小・中学校とも全国平均を上回る	
小学校 63.0 点	65.6 点	小学校 65.0 点	67.7 点		
中学校 71.0 点	69.0 点	中学校 60.0 点	58.1 点		
【算数・数学】		【算数・数学】			
<市>	<国>	<市>	<国>		
小学校 61.0 点	63.2 点	小学校 61.0 点	63.4 点		
中学校 53.0 点	51.4 点	中学校 55.0 点	52.5 点		

※全国学力・学習状況調査・・・毎年実施される小学校６年生、中学校３年生対象の学力等の調査

<全国学力・学習状況調査>



3 情報活用能力の育成 (教育研究所)

●具体的な取組

(1) 生きる力を育むデジタルシティズンシップ*教育の実施

児童生徒自らが情報に関する権利とその重要性を認識し、責任をもって適切に情報を扱い学習する姿勢を育成するため、デジタルシティズンシップ教育を推進します。※デジタルシティズンシップ・・・情報技術の利用における適切で責任ある行動規範

(2) ICT教育推進員による児童生徒及び教職員への支援の実施

ICT教育推進員が各学校を巡回して授業支援や技術的な支援をします。特に小学校低学年への基本的な操作支援や、教職員への個別支援に重要な役割を果たします。

(3) 「学校情報化認定」基準に沿った情報化の推進

学校の情報化を促進するための指標として、日本教育工学協会が総合的に学校の情報化を進めたと認定する「学校情報化認定」において、「学校情報化優良校」の認定を受けることを推進します。

(4) 「ICT活用ガイドブック for Teachers」の活用

教職員のICT活用能力を高めるため、「ICT活用ガイドブック for Teachers」(令和3年度作成)を随時更新し、授業での効果的なICT活用を推進します。

令和6年度取組予定	
・情報モラル教育指導計画に基づき、各校で計画的に取り組みます。	
取組・実績	
<実施内容> ・デジタルシティズンシップ教育について、学校や職務別部会で研修しました。情報モラル推進校を5校指定し実証検証を行いました。 ・ICT教育推進員を4名雇用し、児童生徒、教職員へ手厚く支援しました。 ・「デジタルシティズンシップハンドブック」を作成しています。(2月末完成) ・ICT活用ガイドブックを令和7年度版に更新しています。(3月末完成) <主要な事業費(R6年度予算)> ・需用費 227千円	 <教職員 ICT 研修>
成果・効果	
・情報モラル推進校が、年間1回ずつ授業公開したことで、情報モラル教育に関する授業について考える機会となり、授業方法や理解が深まりました。 ・ICT教育推進員が、デジタルシティズンシップ教育について、教頭会や情報主任研修会等の職務別部会で研修を行うことで、教職員にデジタルシティズンシップ教育についての理解が深まりました。また、参観日等で保護者や親子対象で研修を行うことで、家庭で啓発することができました。 ・ICT教育推進員による、教職員への支援が手厚く、教職員が、授業や学校生活の中で効果的にICT機器を活用できるようになってきました。	
令和7年度取組予定	
・情報モラル教育指導計画に基づき、各校で計画的に取り組みます。 ・ICT活用ガイドブックを活用し、職務部会等での研修を通じて、授業改善に取り組みます。 ・デジタルシティズンシップハンドブックを活用して、児童生徒の情報活用能力を育成します。	

●計画の成果目標

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問で「役に立つと思う」と回答した割合 （「全国学力・学習状況調査」の質問紙）		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
小学校 70.5% 中学校 62.0%	「全国学力・学習状況調査」の 質問項目に記載なし	小学校 80.0% 中学校 70.0%

「学校情報化認定」で「学校情報化優良校」と認定された学校数		
基準値（令和4年度）	現状（令和6年度）	目標（令和9年度）
16校（R5.1.25現在）	21校 学校情報化先進地域に認定 （R6.1.2）	21校

4 食育による健やかな心身の育成（食育推進課）

●具体的な取組

（１）安心・安全で魅力あるおいしい学校給食の安定した提供

安全な食材選びや、季節感のある行事食や郷土料理などを献立に取り入れ、手作りを大切にした安心・安全でおいしい給食を提供します。

令和6年度計画

- ・安全な食材選びを行い、衛生面にも配慮した安心・安全でおいしい給食を提供します。
- ・令和6年度から全ての園、学校で除去食対応が始まります。課題などの共有を行い、安全に除去食対応を実施できるよう、学校、保護者、調理場への支援を継続します。
- ・学校給食従事者に向け、知識及び技術向上のための研修会を開催します。

取組・実績

<実施内容>

- ・原材料やアレルギー及び食味を確認しながら、食材を選定しました。（毎月）
- ・季節感のある行事食や郷土料理などを献立に取り入れました。（毎月）
- ・カレーやシチューはルーから手作りする、汁物は料理に合わせて鰹、煮干し、昆布などの天然だしをとるなど、手作りを大切にした安心・安全でおいしい給食を提供しました。（毎月）
- ・調理員等を対象とした衛生管理研修及び調理実習を実施し、学校給食従事者の技術・知識の向上を図りました。（配膳員研修1回、調理員研修2回）
- ・食育推進委員会を開催し、学校給食における食物アレルギー対応について検討しました。（2回）
- ・新たに除去食対応を開始する学校、園、調理場において、安全な提供がおこなえるよう体制構築支援、見届けをおこないました。

<秋祭りの献立>



<除去食のチェック体制の確認の様子>



<主要な事業費（R6年度予算）>

- ・物価高騰に伴う学校給食負担金 35,031千円

成果・効果

- ・食材費が高騰する中、献立や食材を工夫し、栄養価を維持しながら給食を提供しました。
- ・食物アレルギーについて学校給食従事者と情報共有をおこない、運用を検討することで、安全なアレルギー対応を行う体制づくりにつながりました。

令和7年度取組予定

- ・安全な食材選びを行い、衛生面にも配慮した安心・安全でおいしい給食を提供します。
- ・食物アレルギーについて、課題などの共有を行い、安全に除去食対応を実施できるよう、学校、保護者、調理場への支援を継続します。
- ・学校給食従事者に向け、知識及び技術向上のための研修会を開催します。

(2) 望ましい食習慣を身に付けるための学校・園での食に関する指導の充実

食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けるため、学校給食を「生きた教材」として活用することや食に関連した各教科の学習などを通して食育を積極的に実施します。

令和6年度計画
・学校給食を「生きた教材」として活用した給食時間の指導や教科と関連した食に関する指導などの実践を行い、学校と連携した食育を積極的に実施します。 ・ICTや野菜摂取量を計測できる機器を活用した指導の充実に図ります。(機器の活用(2校))
取組・実績
<実施内容> ・学校給食を「生きた教材」として活用し、栄養教諭等による給食時間の指導や教科と関連した食に関する授業の実践を行いました。 (家庭科19回、学級活動28回、特別活動1回、その他科目4回、短学活7回) ・ICTを活用した食育動画の配信や、一斉放送を実施しました。 (給食時間の動画配信:7回) ・野菜摂取量を計測できる機器を活用し、教科と関連した食に関する指導の実践を行いました。 (昭和小学校、滝呂小、小泉小、脇之島小) <ICTを活用した野菜についての動画配信>
<主要な事業費(令和6年度予算)> ・器具借上料 115千円
成果・効果
・栄養教諭等が学校と連携し、学校給食を「生きた教材」として活用した授業の実践ができました。 ・ICTを活用することで、食育動画の配信を市内や校内で統一した内容で実践できる体制がととのい、年間をととした計画的な食に関する指導ができました。 ・野菜摂取量を数字で評価することができる機器の活用を、昨年度から継続して取組み、野菜摂取についての食に関する指導の実践を複数の学校へ広げることができました。
令和7年度取組予定
・学校給食を「生きた教材」として活用した給食時間の指導や教科と関連した食に関する指導などの実践を行い、学校と連携した食育を積極的に実施します。 ・毎月1がつく日を野菜の日とし、学校給食を活用した食に関する指導をおこないます。 ・ICTや野菜摂取量を計測できる機器を活用した指導の充実に図ります。(機器の活用(2校))

(3) 地域への感謝の気持ちを育むための市内産農産物の活用

食に関する感謝の念や地域への愛着を育むため、学校給食の食材に市内農産物を活用します。

令和6年度計画

- ・地元農家、農産物直売所、J A、県・市農政担当課、栄養教諭等との連携、関係構築を継続します。
- ・年間スケジュールを作成し、計画的に市内産農作物を使用します。
- ・規格や数量を考慮した学校給食での活用法・献立を検討します。

取組・実績

<実施内容>

- ・市内産農産物を提供する「たじっこ給食の日」を実施しました。(15回)
- ・農産物の栽培の様子や、農家のコメントなどを、動画を用いて児童生徒へ伝えました。(3回)
- ・生産者を学校へ招き、給食時間に栽培の様子や苦勞、やりがいについて講話をしていただく機会を設けました。
- ・県・市の農政担当課と連携し、新たに学校給食へ納品していただける生産者の掘起こしを行いました。

<姫町のトマトを使用した献立(トマトソース)> <生産者を招いた給食時間の指導>



農産物	使用月	メニュー名	産地または生産者拠点
トマト	5月	豚肉のたじみトマトソースかけ	姫町
じゃがいも(一部)	6月	たじみじゃがいもの煮物	東栄町 ほか
いちご	6月	つづはらのいちごジャム	甘原町
トマトジュース	9月	ぎふトマトたっぷりスープ	姫町
米	10月	たじっこごはん	大原町 ほか
米	11月	たじっこごはん	大原町 ほか
ブロッコリー	11月	たじみブロッコリーのおかか和え	甘原町
大根	12月	たじっこ大根サラダ	東栄町 ほか
トマトジュース	12月	たじっこトマトスパゲティ	姫町
米	12月	たじっこごはん	大原町 ほか
米	1月	たじっこごはん	大原町 ほか
米	1月	たじっこごはん	大針町
米	2月	たじっこごはん	大原町 ほか
米	3月	たじっこごはん	大原町 ほか
トマトジュース	3月	鶏肉のたじみトマトソース	姫町

<主要な事業費(R6年度予算)>

- ・学校給食地産地消推進事業補助金 1,300 千円
- ・その他の消耗品 38 千円

成果・効果
・「たじっこ給食」を実施することにより、市内で栽培される農産物や生産者について、児童生徒が知り、興味関心を持つ様子が見られました。 ・学校給食へ納品していただける生産者が増えたことにより、たじっこ給食の実施回数が増加しました。(令和3年度0回、令和4年度4回、令和5年度11回、令和6年度15回)
令和7年度取組予定
・地元農家、農産物直売所、JA、県・市農政担当課、栄養教諭等との連携、関係構築を継続します。 ・年間スケジュールを作成し、計画的に市内産農作物を使用します。 ・規格や数量を考慮した学校給食での活用法・献立を検討します。

(4) 家庭への食に関する啓発

SDGsの考え方を踏まえ、教育委員会、学校・園が連携協力して、子どもや保護者へ向けた食育講座を実施します。

令和6年度計画				
・企業や団体と連携し、SDGsの考え方を踏まえた魅力ある食育講座を継続して実施します。 ・PTAと連携し、学校給食試食会や栄養教諭等による講話を実施することで、保護者へ学校給食の安全・安心のための取組みを周知し、健康的な食生活について家庭で実践できるよう食育を行います。				
取組・実績				
<実施内容> ・企業等と連携し、小学生親子、中学生を対象とした食育講座を実施しました。2回 ・保護者向けの学校給食試食会および栄養講座を各学校や園にて実施しました。 (食育講座)4回 162人 (学校給食試食会)19回 386人				
	期日	対象者	参加人数	内容
カゴメ(株)連携 夏休み食育講座	8月8日(金)	小学生 親子	9組 20人	オムライス作りとベジチェック体験 講師:カゴメ(株)担当者
しょうゆもの知り 博士の出前授業	11月16日(土)	小学生 親子	4組 9人	しょうゆの製造過程や、美味しさの秘密等を探る体験型講座 講師:日本醤油協会「しょうゆもの知り博士の出前授業」事務局より派遣
中学生向け 食育講座	10月16日(水)	平和中 2年生 保護者	生徒42人 保護者12人	講話:「成長期の中学生のための勉強、スポーツ、健康に役立つ食事の選び方」 講師:名古屋グランパス食育アンバサダー 森裕子氏
中学生向け 食育講座	10月16日(水)	南ヶ丘中 2年生 保護者	生徒72人 保護者7人	講話:「成長期の中学生のための勉強、スポーツ、健康に役立つ食事の選び方」 講師:名古屋グランパス食育アンバサダー 森裕子氏

＜親子向け食育講座の様子＞



＜中学生向け栄養講座の様子＞



＜学校給食試食会の様子＞



＜主要な事業費（R 6 年度予算）＞

- ・その他の消耗品 50 千円
- ・その他の委託料 110 千円

成果・効果

- ・親子向け食育講座を実施することで、親子で食について学び、調理をしたり食品の製造の過程を知ったりすることで、食について興味関心を高める機会となりました。
- ・保護者向け学校給食試食会を実施し、学校給食の安全・安心のための取組みや、健康的な食生活について、食育を行うことができました。

令和 7 年度取組予定

- ・企業や団体と連携し、魅力ある食育講座を継続して実施します。
- ・PTAと連携し、学校給食試食会や栄養教諭等による講話を実施することで、保護者へ学校給食の安全・安心のための取組みを周知し、健康的な食生活について家庭で実践できるよう食育を行います。

●計画の成果目標

毎日朝ごはんを食べる子の割合		
基準値（令和 4 年度）	現状（令和 6 年度）	目標（令和 9 年度）
93.0%	85.3%（小学校低学年）	100%
※本務校 7 校のみの調査	84.7%（小学校高学年）	
	80.0%（中学生）	

アレルギー除去食対応校、園		
基準値（令和 4 年度）	現状（令和 6 年度）	目標（令和 9 年度）
42.3%（11/26）	100%（26/26）	100%

市内産農産物の活用回数		
基準値（令和 4 年度）	現状（令和 6 年度）	目標（令和 9 年度）
1 回	15 回	5 回

子どもや保護者へ向けた食育講座の実施回数		
基準値（令和 4 年度）	現状（令和 6 年度）	目標（令和 9 年度）
3 回	23 回	8 回→15 回